



## 新しい福音宣教「家庭へのチャレンジ」 シスター小野島照子

2014年から3年間広島教区のサブテーマは「家庭へのチャレンジ」です。教区のホームページに教皇フランシスコのツイート(つぶやき)で家庭についての呼びかけが掲載されています。そこに教会の基礎共同体精神が読み取れます。教皇フランシスコが私達に語られる呼びかけを抜粋して転載します。

2014年

- 4/1 「ご両親のみなさん、子どもたちに祈ることを教えてください。子どもたちと一緒に、祈ってください」
- 5/6 「子どもや高齢者を見捨てる社会は、そのルーツを失い、未来を危うくしています」
- 5/8 「家族の中で私たちは、全ての人、特に最も弱い人を大切にし、その尊厳を守ることを学ぶのです」
- 5/9 「聖性とは日々自ら犠牲を捧げること。したがって結婚生活は聖性へとつながる偉大なる道なのです」
- 5/10 「福音に照らされた家庭は、キリスト者の生活にとって学びやとなります。そこで忠実、忍耐、犠牲を学ぶのです」
- 6/16 「主が家庭を祝福し、この現代の困難な状況にあって力が与えられますように」
- 6/17 「高齢者をじゃま者扱いすることがありますが、彼らは大切な宝です。じゃま者扱いすることは正義に反し、取り返しのつかない損失になります」

- 6/26 「人間と社会の持続可能なすべての発展のために、家庭は本質的要素となります」
- 7/31 「各家庭において、どうか家庭の祈りが再評価されますように。それはまた、相互理解とゆるし合いを助けます」
- 12/9 「家庭は愛の共同体であり、そこで各自、他の人々や、私たちを取り巻く世界との関わり方を学ぶのです」

以上教皇様からの呼びかけで何を感じましたか？

すべての人に福音を伝えたいと願う教皇様は、毎日世界中の人々に呼びかけておられます。現代のメディアにも敏感な高齢の教皇様の宣教熱に圧倒されますね。

第13回シノドス（世界の司教代表者の集まり）は、新しい福音宣教を二つの表現で結論付けます。

神の神秘を観想し賛美することと貧しい人々の姿に現れるキリストに仕えること。

家族で分かち合うヒント

素晴らしい神様に気付きどんなときに賛美しますか？現代の「貧しい人々、小さい人々」とは誰でしょうか？津和野の殉教者に倣って、私達も命がけで平和をつくる人と成れますように！

「平和をつくろう、トントントン！」（山本きくよ作「平和の大工」より）

## Interview

幟町教会に着任されて1年。  
改めて信仰や共同体への思いをお聞きしました。

# ヴィタリ・ドメニコ神父

(1937年11月18日生、霊名ドミニコ)



### —神父様のふるさとはどんな所ですか？

私はイタリア・アペニン山脈の田舎(アッシジの北東)の農家に生まれました。両親と妹2人の5人家族です。毎晩ロザリオの祈りをするのが習慣で、特に死者のために毎日家族で祈りを捧げていました。通っていた教会は中世期に建てられた古い教会でした。小学校は1学年5~6人と少なかったですね。

### —司祭を目指すようになったきっかけは？

小学校を卒業後に小神学校(5年間)に進学しました。その後アッシジの神学校(3年間)に進学。卒業後は、北イタリアで宣教が盛んなイエズス会(修練2年間)に入会しました。

「神がこの人に対して何を望むか」を大切に  
する修道会だと魅力を感じて選びました。ローマでは3年間、哲学を学びました。それから日本で宣教したいと希望し、イエズス会の総長に手紙で直訴しました。1963年にアメリカで半年間英語を学んだ後、1964年2月来日しました。

来日後は、鎌倉にあるイエズス会の神学生のための日本語学校で1年間学んだ後、長東の修道院でラテン語を教えることになりました。

### —どんな司祭を理想とされていますか？

多くの人に関わり、福音を伝えたいです。信徒だけでなく、一般の人や幼稚園の子どもたちと関わるのも魅力的です。

### —どんな時に「生きがい」を感じられますか？

修道者は自分の事よりも他の人の事を考えます。求められて役に立つのなら喜んで行きますよ。

### —もし司祭になっていなかかったとしたら？

他の道を考えてことはありません。

### —他の小教区(地域)と当小教区を比較すると

聖体奉仕者による病人訪問や、聖堂案内などよくやっていると思います。ただ、教会の内側の事で忙しくしていますが、一般の人を迎えるための外向きの活動(福音宣教)がもっと必要だと感じています。

### —「平和」について、想いをお聞かせください

平和のために祈ることを大事にするべきです。平和のために祈り、活動することを習慣にしてほしいですね。

また、外国人を受け入れて、どんな人とも仲良くすること、外国人を迎えて一つになることが平和につながっていくと思います。

### —幟町の共同体に期待することはありますか？

福音宣教をいつも活動の中心にしてほしいですね。

# 息子と命の遭遇 その後

西ブロック YN

2月号に投稿させて頂き、多くの反響を頂き、多くの祈りと励ましを頂きながら今日まで過ごしてきました。

再度の投稿で申し訳ないのですが、とてもうれしいことがあったので、お礼方々ご報告させていただきます。

## 【再会のミサ】

事故後7か月を過ぎ、初めて病院から「外泊許可」が出ました。

先の聖霊降臨の主日に、息子を伴い家族でミサに参列することができました。

久々のご聖体を拝領し、ミサ後には堅信祝賀会にも参加しました。



## 【終始ご機嫌♪】

祝賀会の最中、多くの方が駆け寄ってくださり、再会を喜んでくださいました。

「いつもお祈りしてたのよ～！♪」  
「うわ～ッ、歩けるようになったんだ！♪」  
本人も笑顔が絶えることなく、とてもうれしそうでした。

## 【ゴッドハンド？の神父さん】

ヴィタリ神父さんが、初めて病院を訪れてくださった1月末の事。車イスで搬送されて

きた息子に「新しく赴任された神父さんだよ」と紹介した。

手を差し出し、握手した、その時…、なんと！息子が立ち上がった!!

看護師だけでなく、立ち会っていた私たち夫婦もビックリ、啞然とした。

…それ以来『ゴッドハンドの神父さん♪』と勝手に愛称を付けさせていただき、息子もしっかりと記憶している。



## 【恵みのご計画？】

息子は事故直後、病院で19歳の誕生日を迎え、この秋で成人する。

高校に入る頃から、教会離れしてしまい、親としては気をもんでいた。

もし、このような事故に出会わなかったら、教会に戻って来るのは、再び聖体を拝領するのは何時のことだったのだろうか？こんな素敵な笑顔で人生を送ることはあったのだろうか？そう思うと「これも恵みのご計画なのかもしれない…」と感じ入ってしまう。

## 【幸いなるかな】

多くの方々の多くの祈りと、暖かい励ましを頂く中、教会共同体について改めて感じ直す良い機会ともなった。

自分の事のように危惧し、自分の事のように喜んでくださり、まるで人生を共有して下さっているようです。

…幸いなるかな、主を求める者々の共同体。幸いなるかな、主が呼びかけ、集まった者々の共同体。アーメン。



## 14人が決意新たに



5月25日の聖霊降臨のお祝いの日、14人が堅信の秘跡に与りました。  
ミサの後、受堅者を囲んで祝賀会が開かれ、14人はそれぞれの思いや決意を話しました。最後に、受堅者全員で合唱を披露。お祝いをする側が、新たな出発をされた受堅者に励まされたひと時となりました。  
今後とも、みんなで力を合わせて福音宣教に取り組んでいきましょう。

## シリーズ 至聖なるご聖体 (7)

聖体授与の臨時の奉仕者 HT

第7回目は、「あがないの指針」からの紹介です。なお、教会公文書の自己解釈は誤用につながりますのでご注意ください。

序文 2「至聖なる聖体に関する教会の教えは、公会議や教皇の文書によって、幾世紀にもわたって、細心の注意と大いなる権威をもって解説されてきた。実に聖体のうちにこそ、教会の霊的富のすべて、すなわち、わたしたちの過越の小羊キリストご自身が内在し、聖体は、キリスト教生活全体の源泉、頂点であり教会の起源そのものを生み出した要因ともなっている。」

私たち聖体授与の臨時の奉仕者は、2ヶ月に1回ある「奉仕者の集い」の中で、公会議文書、教皇の文書やその他教会公文書が教える至聖なる聖体について、公文書を読み合わせることに  
より謙虚に学び、霊的同伴者の聖職者から補足解説を聞き、至聖なる聖体が私たち奉仕者自身のキリスト教生活の源泉であることの理解を助け、また、聖体授与の臨時の奉仕を通して、信徒のキリスト教生活（特に病者の訪問）へ参与するようにしています。



### 編集後記

今年度が始まり、もう2か月。教会学校に新しく入ってきた子供たちは楽しそうに過ごしています。

今年1年、色々な行事を通して神様のことを身近に感じてほしいと思います。(さ)